

# 中野重治 略年譜

- 明治35年(1902) 1月 福井県高棕村(現在・坂井市丸岡町)一本田に生まれる。
- 明治39年(1906) 1月 妹鈴子が生まれる。
- 明治41年(1908) 4月 坂井郡第三高棕尋常小学校に入学する。
- 大正3年(1914) 4月 福井中学校に入学する。  
6月 祖母 みわ死去。(73歳)
- 大正8年(1919) 3月 福井中学校を卒業する。  
8月 兄耕一、ウラジオストックで病死。(27歳)  
9月 第四高等学校に入学する。
- 大正9年(1920) 6月 四高の『北辰会雑誌』に詠草四首掲載。以後卒業まで編集に携わる。  
12月 『北辰会雑誌』に、はじめての小説「口笛の話」を発表する。
- 大正12年(1923) 11月 関東大震災のため金沢に帰っていた室生犀星を訪ねる。以後、犀星の死まで知遇を得る。
- 大正13年(1924) 3月 第四高等学校を卒業。4月 東京帝国大学文学部独逸文学科に入学する。  
5月 祖父 治兵衛死去。(83歳)
- 大正14年(1925) 夏 新人会へ入会する。
- 大正15年(1926) 4月 堀辰雄らと『驢馬』を創刊する。以後ここに詩「夜明け前のさよなら」「歌」「機関車」等を発表する。
- 昭和2年(1927) 3月 東京帝国大学文学部独逸文学科卒業。6月頃、芥川龍之介の自宅を訪ねる。プロレタリア文学運動に専念。詩「雨の降る品川駅」、小説「春さきの風」、評論「芸術に関する走り書覚え書」、「素樸ということ」等、多くの作品を発表する。
- 昭和5年(1930) 4月 原政野(原泉子、戦後は原泉)と結婚する。(28歳)  
7月 治安維持法違反容疑で刑務所に收容される。12月 保釈出所する。
- 昭和6年(1931) 夏 日本共産党に入党する。
- 昭和7年(1932) 4月 治安維持法違反で逮捕され、以来2年間刑務所に收容される。
- 昭和9年(1934) 5月 政治運動から身を退くことを約束して刑務所を出所する。以後、「村の家」「小説の書けぬ小説家」「汽車の罐焚き」「歌のわかれ」「空想家とシナリオ」等の小説や「斎藤茂吉ノオト」、鷗外論等の評論を発表する。
- 昭和14年(1939) 2月 長女 卯女生まれる。
- 昭和16年(1941) 11月 父 藤作死去。(75歳)
- 昭和20年(1945) 敗戦。日本共産党に再入党。「新日本文学会」を創立し、以後これによって小説・評論・随筆・講演・座談会等、広く日本内外の文学全般にわたって発言執筆活動を続ける。
- 昭和22年(1947) 4月 参議院議員(全国区)に当選し、3年議員となる。
- 昭和23年(1948) 6月 福井大震災により、一本田の生家が倒壊する。
- 昭和25年(1950) 7月 母 とら死去。(76歳)
- 昭和26年(1951) 三好達治らとともに『日本現代詩体系』(河出書房)の編集に参加する。
- 昭和30年(1955) 11月 小説『むらぎも』(講談社)で昭和30年度毎日出版文化賞を受ける。

- 昭和32年(1957) 10月 中国作家協会と中国人民対外文化協会から招待され、山本健吉、井上靖、堀田善衛、多田裕計、本多秋五らとともに中国各地を訪ねる。
- 昭和33年(1958) 1月 肝硬変のため妹 鈴子死去。(51歳)  
2月 丸岡町竜北中学校校歌を作る。
- 昭和34年(1959) 5月 ソビエト作家同盟第三回大会に招かれ、ソビエト各地を訪れる。同月、小説『梨の花』を新潮社より刊行する。
- 昭和35年(1960) 1月 「梨の花」により、第11回読売文学賞を受ける。
- 昭和37年(1962) 3月 室生犀星死去、葬儀委員長をつとめる。
- 昭和39年(1964) 3月 「丸岡中学校の歌」を作る。  
11月 日本共産党から除名される。  
新潮社版『室生犀星全集』の編纂に、三好達治らと携わる。
- 昭和42年(1967) 2月 初孫 鰐目麻子生まれる。
- 昭和44年(1969) 1月 一本田生家跡に鈴子碑が建つ。  
12月 「甲乙丙丁」により、第22回野間文藝賞を受ける。
- 昭和48年(1973) 6月 都立駒込病院で白内障の手術。この頃より心臓病等も患い健康衰える。
- 昭和51年(1976) 11月 一本田墓地に中野累代墓を建てる。
- 昭和53年(1978) 1月 小説、詩、評論など長年にわたる文学上の業績によって、朝日賞を受ける。
- 昭和54年(1979) 7月 胆のう癌が発見される。8月24日、死去。(77歳)  
11月 中野重治を偲ぶ文藝講演会(新日本文学会主催・於紀伊國屋ホール)が開かれる。
- 昭和55年(1980) 5月 『中野重治全集』(筑摩書房刊)全28巻が完結する。  
7月 丸岡町一本田の生家跡が丸岡町に寄贈される。  
8月 生家跡に「中野重治 ここに生まれ ここにそだつ」(寺田透書)と刻まれた碑が建つ。  
8月 第1回中野重治を偲ぶつどい(第7回から「くちなし忌」と呼ぶ)が開催される。
- 昭和57年(1982) 7月 中野重治蔵書1万3千冊が丸岡町へ寄贈される。
- 昭和58年(1983) 5月 中野重治文庫記念丸岡町民図書館が落成する。
- 昭和63年(1988) 2月 世田谷の書齋が一本田生家跡に移築される。
- 平成元年(1989) 5月 妻 原泉死去。(84歳)

#### 【主な参考資料】

『中野重治全集別巻』(筑摩書房)

『石川近代文学館全集 8』(石川近代文学館)

『文学アルバム 中野重治』(能登印刷・出版部)

『新潮日本文学アルバム 中野重治』(新潮社)